

今月の人

人材バンクより南国市の生涯学習に深く寄与して下さる方を紹介していきます。



井上正彦さん
(同豊町)

この年、大豊町の豊永小学校を最後に教壇を降りた井上さん。在職中は青年団やこども会の活動、ボランティア活動などに飛び回りました。地域のつながりを大切に「とにかくみんなが楽しめるように」と考え、お酒の席ではアコーディオンなどの演奏で場を盛り上げます。

現在、高知市の三里幼稚園長を務めるかたわら、大正琴や、ママさんコーラスの指導にあっています。16年前から聞いている大正琴教室では、みんなが家でも練習しやすいようにと、シンセサイザーを使って伴奏をテープに吹き込んで渡しているそうです。

「生活していると、気付かないうちに誰かの世話になっている。人に親切にすることでその恩返しをしている」という井上さん。これからもその明るい人柄で周りの人たちを楽しませてくれることでしょう。

短歌

泉の岡とも表かりしともふり返る
婚五十年は茫茫よざる
西島 門田美枝子

夏の木立の蔭りに暫し安らげば
樹うがごと飛びさし胡蝶
三島 小笠原綾子

車窓に法師蝉の音子等銅ひし
秋の足音鈴虫鳴けり
久枝 徳久 昌男

ミヤンマーの難民の舟に弟の
面影さがす五十年祭の集ひ
大塚 田所 志奈

日どかりはす取惜しみて娘半と故
室傷だらけの妻の掌愛し
三島 有元 一馬

来不足さわがれし日も復わすか
風の間に間に稲穂の匂いす
立田 北村 幸江

青空に稲穂の波が光るかな
十市 田所小夜子

夕暮れにまだ鳴きやまぬ蝉の声
十市 加川 須磨



俳句

水飲んでサンショウウオに逢う千感
大塚 山本 和子

冬瓜を叩いて海を叩んでみる
西野田町 橋本 純子

風の道まで洗い夏知る道社神
後免町 中村 竹子

薬師如来の袖内くぐる白牡丹
大塚 川田 玉恵

浮世絵を見終っている残暑中
里改田 福井 英子

ゴロ寝して日焼少女に覗かれる
里改田 福井 博子

含羞の少し混じりて輝鳴けり
里改田 岡田 寿子

切金や雀来てるる手水鉢
前浜 竹村 福女

刺風を含みて蓮のゆるみけり
稲生 中沢 道子

一枚の芙蓉を荷としぬ夏通路
前浜 竹島 巖

夢うつ、麻酔の闇で夫が呼ぶ
緑ヶ丘 加美 寿也

平和今かみしめ鳴子のリズム行く
古市 島田八重子



川柳

市の統計

面積	125.11㎢
人口	48,402人 (+32)
男	23,130人 (+15)
女	25,272人 (+17)
世帯数	18,167世帯 (+8)
()内は前月比	
《平成7年7月31日現在》	

火災・救急

《火災》		《救急》	
発生件数	2件	出動回数	112回
建物	1件	急病	55回
山林	0件	交通事故	20回
その他	1件	一般事故	17回
被害額	8万円	その他	20回
《平成7年7月分》			

まほろば

昔から「暑さ寒さも彼岸まで」といわれます。残暑が厳しい季節ですが、九月の声を聞くとなぜかホッとします。暦の上では立秋も過ぎ実りの秋を迎えました。野山には種々の実実が実り、稲穂が黄金色に輝いています。一つぶの種が、莫大な時間と多くの人たちの手を経て、芽を出し、茎となり、葉をつけ、実を結ぶ。そして先人の知恵によって様々な料理となって私たちを楽しませてくれる。そう考えると、なにげなく食べている毎日の食事や、当たり前のように並べられた料理も、決して疎かにすることはできません。

秋の彼岸のころになると、あざ道を真っ赤に染めて咲く「彼岸花」。どんなに天候が不順であろうとも、必ず花を咲かせます。この花を見るたび、大自然のサイクル、いのちの躍動の偉大さと不思議さを感じずにはいられません。また、その葉や地下茎は、飢饉のときに食料にされたといわれています。豊かな社会、飽食の時代に生まれ育った私には想像すらくきません。

昔と変わらぬ咲き始めた彼岸花を見ながら、多くの人々の苦勞と、先人の生を思い、実りの秋に改めて感謝したいと思えます。

(歌)

広報に、地区連絡員さんたちのご協力で皆さんの家庭にお届けしています。